

車輪梅

＜鹿島中学校 学校だより＞

【令和5年2月号①】

よりよい教育活動の創造のために

《令和4年度重点目標》『互いに認め高め合い 夢に向かって挑戦し続ける 品格のある鹿島中生』

11月にご協力をいただきました学校評価アンケートでは、今年度も本校教育活動について概ね肯定的な評価をいただきました。その概要や今後の取組についてお伝えいたします。

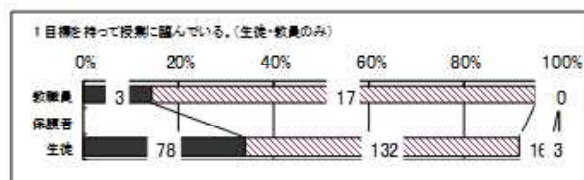
【確かな学力の向上】

1 目標を持って授業に臨んでいる。(生徒・教員のみ)

教職員に比べ生徒のA評価の割合が2倍近くとなっています。

▶ 生徒が今後一層、学習課題を明確に自分事としてとらえられるように、「①学習課題の必然性の実感」「②学習(内容)の意義の実感」を感じさせていきます。そのため授業では次のことを意識します。

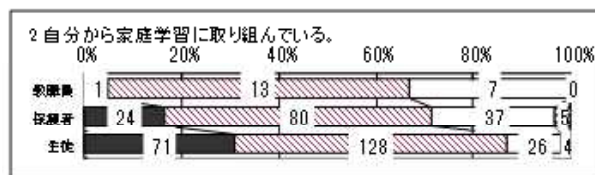
- 単元全体をとおして身につける資質・能力と、本時で何を学ぶのかを明確にし、教師と生徒で共有化する。
- 生徒の疑問やつぶやき、意見の差異を手がかりに、単元(本時)の課題解決に向けた、生徒主体の学習を展開する。



2 自分から家庭学習に取り組んでいる。

教職員は0.2ポイント、生徒は0.1ポイント増加し、保護者は0.1ポイント減少しました。学級担任は自主学習ノートの取り組みから生徒の頑張りがや変容を感じつつも、まだ十分とはとらえていない事が分かります。家庭でも改善の余地があると考えていることが分かります。

▶ 今後も SPL を活用し、計画的に家庭学習に取り組む習慣を確立させていきたい思います。質的な改善に向けた内容や量、方法についても共通理解を図りたいと思います。



3 卒業後の進路について考えるようにしている。

生徒では特に3年生の評価が最も高い結果でした。これは進路目標が明確になってきたことが理由として考えられます。一方、教職員・保護者は、そのことが、学習に結びつくまでにはいたっていないととらえています。

▶ 生徒の将来について考えようとしている姿を認めるとともに、キャリア教育の機会をとらえ、現在の学習が自分の将来につながっていることに気づかせ、何事にも目的意識をもって取り組む姿勢や時間を有効に活用する態度につなげてきたいと思います。

